

平成26年度 第4回 広島県立大崎海星高等学校活性化地域協議会 議事要旨

【日 時】 平成27年2月10日（金）16：30～18：00

【場 所】 広島県立大崎海星高等学校

【出席者】（敬称略，50音順）

出口 一伸，大林 秀則，閑田 大祐，小林 弘晁，小林 弘志，高田 幸典，二宮 力
宗本 祥子（委員8名）三浦 喜成，依田 功二（広島県教育委員会事務局2名）

【議事概要】

1 開 会

○校長挨拶 ○会長挨拶

2 報 告

(1) 第3回協議内容について

3 協 議

(1) 今年度の取組の成果と課題について

○学校の行っていることが見えにくいという意見がある。教職員ができるだけ町に住み，地域と交流することで，理解が進むのではないかと。
→ 地域の行事等には，できるだけ多くの教職員が参加するように努めている。学校が行っている地域との交流を見える化する方法を探りながら推進していく。

○中学校への出前授業が行われているが，その効果について検証されているのか。

→ やりっ放しにならないように，来年度実施する施策について，評価方法の工夫や振り返りの実施などの検討を始めた。

○地域学習「大崎上島学」を高校で実施することには大きな意味がある。将来的に島へ帰ってきて志を果たす生徒を育成して欲しい。

→ 平成27年度より，小学校・中学校との系統性を意識した「大崎上島学」を実施することで検討中である。将来的には，学校設定科目として実施するよう検討を始めた。

○県外から生徒を募集することを想定した，魅力あるコンセプトを作る必要がある。

→ 地域コーディネーターも参加する「大崎海星高校魅力化推進チーム」を立ち上げ，ミーティングを開始した。今後は，その場で，魅力化に係る施策の戦略を練る。

○中学校文化祭への和太鼓部の参加など取組は進んでいるが，中高合同での演奏ができるようになって欲しい。

→ 中学校との実務者会議で検討していく。また，島外での演奏の機会を探っていきたい。

○インターンシップは島外を中心に行っているようであるが，島内でも積極的に行って欲しい。

→ 生徒の進路希望に合わせて，島外・島内で行っている。島内事業所の紹介も含めて，生徒が幅広い選択ができるよう配慮していく。

(2) 来年度に向けて

○協議会委員に，町議会代表者に入ってもらおう。

○寮・里親については，今年の10月を目途に関係者で協議し，平成28年度入試からの県外募集実施を目指す。

(3) その他

○2月21日（土）に山形で実施される第1回SCH(Super Community High school)ネットワークシンポジウムに，校長・教職員の2名で参加する。

○マツダスタジアムの公式戦で行われる「市町村PR隊」についての情報提供。

4 まとめ

5 閉 会

○校長挨拶 ○会長挨拶

※本協議会は，公開としております。

